

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2023年第1週 2023年1月2日（月）～ 2023年1月8日（日） 2023年1月12日作成

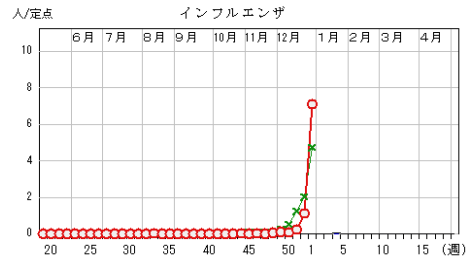
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）インフルエンザ

第1週の報告数は498人で、前週より420人多く、定点当たりの報告数は7.11であった。

年齢別では、20～29歳（104人）、15～19歳（68人）、10～14歳（61人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（11.00）、壱岐保健所（10.33）、西彼保健所（10.00）であった。

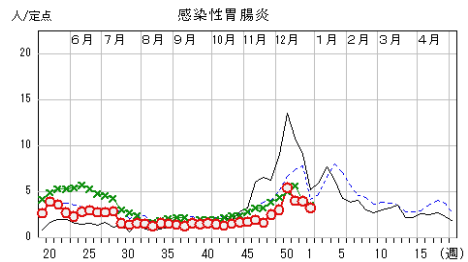


（2）感染性胃腸炎

第1週の報告数は142人で、前週より31人少なく、定点当たりの報告数は3.23であった。

年齢別では、1歳（35人）、2歳（19人）、3歳（18人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（6.20）、佐世保市保健所（4.67）、上五島保健所（4.50）であった。

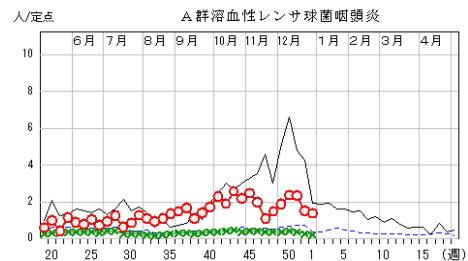


（3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第1週の報告数は61人で、前週より5人少なく、定点当たりの報告数は1.39であった。

年齢別では、10～14歳（14人）、5歳（9人）、9歳（7人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（11.40）であった。



○ 当年(長崎県) 前年(長崎県)
× 当年(全国) 前年(全国)

☆トピックス・季節情報

【インフルエンザ】

第1週の報告数は498人で、前週より420人多く、定点当たりの報告数は7.11となりました。地区別にみると、県北地区（11.00）、壱岐地区（10.33）、西彼地区（10.00）は他の地区より多く、注意報レベル基準値「10.0」を超えています。今後も動向に注意しましょう。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起り、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方は、その病状が悪化することもあります。小さなお子さんの場合、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。

インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。ワクチンの予防効果が期待できるのは、接種した（13歳未満の場合は2回接種した）2週間から5か月程度までと考えられていますので、希望される方は早めにワクチンを接種しましょう。

【感染性胃腸炎】

第1週の報告数は142人で、前週より31人少なく、定点当たりの報告数は3.23でした。地区別にみると県南地区（6.20）、佐世保地区（4.67）、上五島地区（4.50）は他の地区より多くなっています。例年、12月から1月に報告数が増加します。今後も予防に努めましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第1週の報告数は61人で、前週より5人少なく、定点当たりの報告数は1.39でした。地区別にみると県南地区（11.40）の報告が多く、警報レベル開始基準値「8.0」を超えていますので注意が必要です。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：インフルエンザに注意しましょう

2023年第1週の定点当たりの報告数は、「7.11」となりました。2022年第52週に定点当たり報告数が流行入りの目安となる「1.00」を超えたことから、1月6日に長崎県感染症対策室がインフルエンザ流行入りを発表し、今後の本格的な流行が予想されます。

地区別では、県北地区（11.00）、壱岐地区（10.33）、西彼地区（10.00）で、注意報レベル「10.0」を超えています。

今シーズンは、新型コロナウイルス感染症との同時流行にも注意が必要です。手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

また、インフルエンザワクチンは、発症および重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は早めにワクチンを接種しましょう。

(参考)厚生労働省 インフルエンザ総合ページ(外部のページに移動します。)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html

(参考)感染症対策室：長崎県 インフルエンザ流行期入りの発表

<https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2023/01/1672971469.pdf>

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



